



発行人 社会福祉法人武蔵野  
武蔵野市吉祥寺北町4-11-16  
0422(54)7666

(2月22日～3月20日)

4月1日現在 職員総数 309名

## 「ひらけ、自分。」

理事長 安藤 真洋

すでに皆さんは把握していると思いますが少しおさらいをしておきます。国は、団塊の世代が後期高齢者となる2025年までに、医療と介護の整合的な計画のもとに、地域を基盤とした包括的な支援体制の構築を進めようとしています。2009年から日本の人口は減少していますが、少子高齢化への対応も含め、国はさらなる経済成長の確保を基軸に「ニッポン一億総活躍プラン」(2016年)を掲げました。そこでは「地域共生社会」が強調され、今後予測される危機を克服しようとする方向性が示されています。

よく考えるとこの動きはかなり前から始まっていました。まず2008年(平成20年)、「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告」が出ています。副題は「地域における『新たな支え合い』を求めて」となっており、その主旨は社会の構成員がもつ様々なニーズ、例えば公的なサービスだけでは解決できない制度外のニーズや制度の谷間のニーズ、また貧困や社会的な排除への対応などを含め複合化するニーズの増大に対して、地域における「新たな支え合い」こそが重要だとするものでした。その後2013年(平成25年)には「社会保障制度改革国民会議報告書」が、そして2015年(平成27年)には「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現～新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン～」(いわゆる新福祉ビジョン)が示されました。

流れは一貫しており、昨今は地域包括ケアシステムの全世代、全対象への拡大、そして住民主体の活動の意義が語られています。

その上で国は社会福祉法人に対して、その公益性を発揮した地域貢献活動をいっそう進めることを求めています。総じて社会福祉法人をはじめとする非営利の活動体(いわゆる中間団体)を社会的に改めて価値づけしたとも言えます。ドラッカーは「非営利機関はかつては付けたし的な存在と見られ、せいぜい政府のプログラムを補完するか、あるいはそれに特殊な華を添えるものにすぎないとされてきたが、現在はその意味するところは変わってきており、政府や企業とは異なる何かを『為す』組織であるという認識に至っている」(要約「非営利組織の経営」1991年)と言いましたが、好むと好まざるにかかわらず、またその実行が簡易でないことを予測しつつ、非営利組織である社会福祉法人もこの潮流を踏まえて、考え「為す」ことが求められているのです。

こうしたことを踏まえると今我々に必要なことは経営基本原則に立って、一体的に行動できるように法人の機能を強化することだと考えます。これは社会的な役割を果たす上でも、また我々の価値を高める上でも大事なこととなります。法人は多層的な価値を持っていますが、外部環境が変わる中では現状に安住すれば意味は変質していきます。注意しなければなりません。年度末に法人は今後3年間の中期基本計画を策定しました。今後はその実践を通して新たな価値を生み出す努力をお願いしたいと思います。

そのために職員のみなさんには広く眺めること、社会的な問題意識をもつこと、そして自らの考えに幅と奥行きを持たせることを求めたいと思います。電車の広告で「ひらけ、自分。」というコピーを見つけました。人は仕事で磨かれると言いますが、そのためには自分をひらく(開、拓)という心構えが必要です。学ぼうとするとする気持ちといってもいいかもしれません。現場では厳しいこともありますが、学んでそれに立ち向かう努力は確実に自分を支え、成長させてくれます。

法人は事業を始めて25年。今年は画期というべき時です。この1年、力を会わせて有意義なものにしていきたいと思います。

## 「ハビットの職員から見た巡回相談事業」

みどりのこども館副参事 平沼 勝也

ハビットでは幼稚園や保育園、学校への巡回相談事業を実施しています。その中で先方から「ハビットの職員は子どもを見ればすぐに特徴や対応方法のすべてが分かる」や「保護者は（自分たちが言うよりも）ハビットの職員に言われることで納得して支援につながる」等、過度に期待をされ不安を感じることがあります。それに対して、私たちが巡回相談をどのようなことを考えながら行っているか、職員間で共有できたことをお伝えします。

多くの場合、ハビット巡回相談の頻度は年間で1施設あたり1～2回、1回あたり1～2時間で先生との情報共有、子どもの行動観察・評価、評価のフィードバックと対応策の打ち合わせを行います。対象となる子どもが1人ということは稀で、複数の子どもについて同時にそれらを行っています。行動観察を出来る時間は子ども一人当たりになると多くても年間で30分程度です。毎日関わっている担任の先生とは全く比較にならず、すべて知るのには到底無理なのです。

その限られた時間の中で相談を行うために、「特定の視点」から子どもの発達状況を捉えます。この「特定の視点」は、それぞれの職種が担う分野の過去の様々な研究等で積み重ねられてきた「根拠に基づく知識」を背景とし、個人的な価値観や体験に拠らないことが原則です。

事前情報として、(先生との関係性が反映された)子どもの普段の姿を聞き取ります。その情報と実際に行動観察で見られる姿から子どもの発達状況について仮説を立てます。行動観察を続けるうちに仮説を強化するような様子や、逆に仮説に反するような様子が見られることがあります。仮説に反することがあった場合は仮説を修正し、その検証をするという作業を頭の中で繰り返していきます。仮説は子ども一人ずつ必ず違います。例えば「Aさんはダウン症だからこういう発達の状況」と疾患や障害名、特徴などでタイプ分けし、その疾患を持つ子どもであれば誰にでも当てはまるような仮説では不十分です。「Aさんの発達状況はこうで、そこにはダウン症の疾患からくるこの特徴やこのような生活の環境が影響しているかもしれない」というように、その子どもオリジナルの仮説を個人要因や環境要因などから考えるようにしています。

結果としてその子どもの様々な場面での姿や行動を説明できる仮説が立てられるとは限りません。あくまでその日に得られたことから、一番妥当と思われるものを評価とし、評価に基づく対応方法を先生と共有します。その時、自信满满で話せることはまずありません。評価は日頃の姿と合致しているのか、対応方法は実現可能性があり効果を感じてもらえそうなのかなどについて評価のフィードバックをしながら確認し、対応方法を実際場面に合わせて調整します。使ってもらえそうな方法を提案し、それを採用してもらえるのかは相手の判断です。

このようにハビットの巡回相談支援は、ハビットから施設への一方通行ではありません。日常の子育て支援や教育が行われているところに、私たちの視点からの仮説や評価を提案し、子どもへのより良い支援のために相互に意見を出し合い連携することが重要です。



2月25日(日)

## 第11回きょうだい交流会

特別な支援を必要とするお子さんのきょうだい(小学生以上)を対象にした交流会を行いました。中高生の参加者の部活などに配慮し、今回から日曜開催になりました。当日はゲームやランチ会・パフェ作り、おはなし会を行いました。おはなし会では、会の主旨をみんなで共有し、思い思いのおしゃべりを楽しみます。きょうだい達の共助が進むことを目的に、6年生以上のきょうだいには次の会で「小さなきょうだい達にやってあげたいこと」を考えてもらいましたが、次々と素敵な企画のアイデアが出てきました。(武藤 友佳)

地域療育相談室 ハビット



3月3日(土)

## 武蔵野市障害者福祉センター講演会

「視覚障害当事者と考える共生社会とは～フィリピン、イギリスでの体験を通して」という講演を、石田由香理さんにしていただきました。現在28歳で、1歳3カ月より全盲。国際基督教大学・英国サセックス大学大学院を卒業した中で経験した様々な困難や、先月までNPO職員としてフィリピン障害者支援事業を担当して考えたことなどを伝えて頂きました。

共生社会とは「誰もが他人に対して何かしらできることがある社会。自分は必要とされているんだ、生きていていいんだと思える社会」であるとのお話しに、当事者の方自身の体験談の貴重さを感じる講演になりました。(伊藤 泉)

障害者福祉センター



3月5日(月)

## スタンプ押し

各ご家庭に配布する資料を入れる封筒に、スタンプを押しています。治具としてクリアファイルの必要な所を切り抜いたものを用いる事で、スタンプを押す目安の場所が分かり易くなり、多くの利用者の方が取り組む事ができるようになっています。どのような作業でもいえる事ですが、何らかの工夫をする事によって様々な場面で活躍できたり、ご自身の得意分野を生かす事が出来るようになる方がいらっしゃいます。職員が処理している業務の中にも、もっと利用者の方の関われる内容のものも眠っているかもしれません。(大塚 丈彦)

ワークセンター大地



3月10日(土)

## 御殿山1丁目 地域ケア会議

ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター

御殿山1丁目の地域活動団体と共に、地域の方々が何を思い、求めているか、毎月話し合いを重ねてきました。「いつまでも住み続けられるまちを目指して」をテーマで実施した住民アンケートの集計結果をもとに、地域ケア会議を行いました。

挙げられた地域の困りごとや生活課題等、様々な世代の視点で意見交換を行うことができ、地域に必要な取り組みが明確となりました。これからも地域課題解決に向けて、住民と共に取り組んでいきたいと思えます。(樋口 加織)



3月20日(火)

## アフター5のおたのしみ

いんくるでは、就職された方々のフォローの一環として、年に数回、就職者の会を行っています。昨年度からはじめ、早いものでもう7回目。前回好評だった飲食店での食事会でした。「いや～、〇〇さん、久しぶりだね!」…皆さん、食事もそこに、職場の様子を情報交換したり、昔の思い出を語り合ったりなど、久しぶりに再会した仲間同士の会話を楽しんでいました。中には、この場で初めて会った方同士で意気投合する様子も見られ、貴重な仲間作りの場となっているのを実感できました。今後も皆さんの意見を聞きながら、多くの方に楽しんでいただける会を作りたいと思えます。(後藤 耕士)

## ジョブアシストいんくる



事務局より 4月の予定

- |  |                   |
|--|-------------------|
| 2日(月) 辞令交付式兼入社式、新人職員採用時研修<br>(1日目)、施設長会議 | 17日(火) 誰でも相談室     |
| 3日(火) 新人職員採用時研修(2日目)                     | 19日(木) 第1回中央衛生委員会 |
| 13日(金) 職員全体説明会                           |                   |

### <編集後記>

4月になり、今までの寒さが嘘のように暖くなりました。各事業所も新年度になり新しい体制、新しいご利用者の受け入れとなにかと忙しい時期でもあります。お忙しい中原稿を担当して下さいました。今年度も武蔵野日記を宜しくお願い致します。 デイセンター山びこ 笠原 匠充